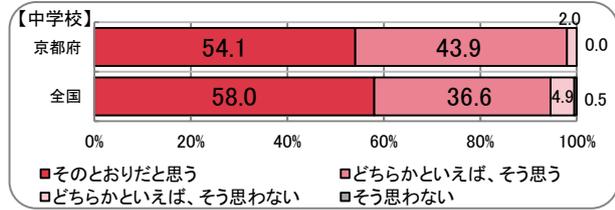
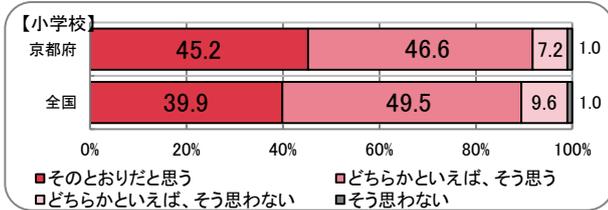


(8) その他の項目

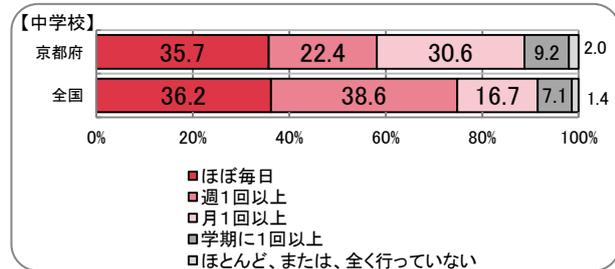
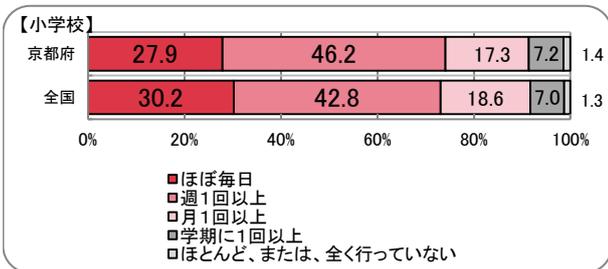
京都府のデータは京都市を除いています

Q1～4は便宜上の番号であり、実際の質問番号はP60参照

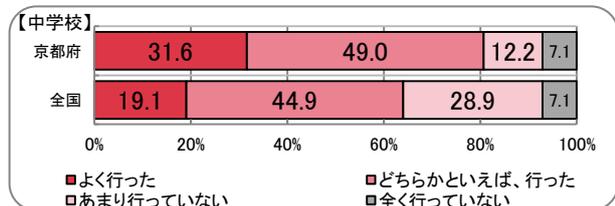
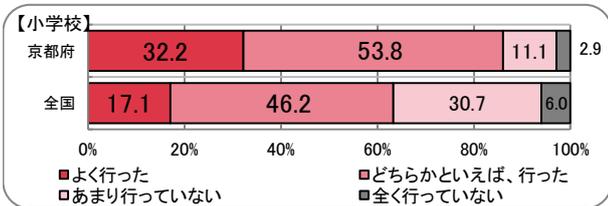
Q1: 調査対象学年の児童(生徒)は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。



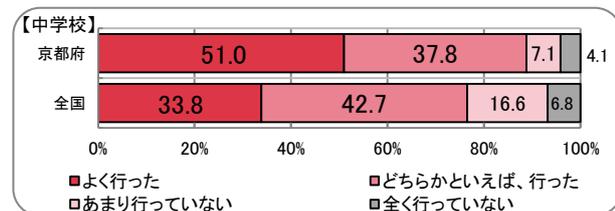
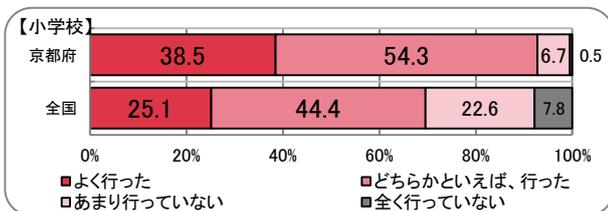
Q2: 調査対象である児童(生徒)に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板等)等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。



Q3: 平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小(中)学校と成果や課題を共有しましたか。



Q4: 前年度までに、近隣等の小(中)学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。



分析 Q1「児童生徒の落ち着き」は小中学校とも、肯定的回答の割合は全国平均よりも高く、学習環境の改善は進んでいると言える。Q2「授業におけるICT機器の活用」は、中学校で「週1回以上」の回答の割合が低い。Q3・4「近隣の小(中)学校との連携」の肯定的回答の割合が全国平均よりも高い傾向は変わらず、京都府の強みである。小中連携はかなり進んできており、この傾向で、校内授業研究の実施回数も高めていくことが望まれる。